

内航海運の今後の活性化に向けて

2011. 1. 28

杉山雅洋(早稲田大学)

1. 内航海運の役割と動向

- ・ 2008 年度の輸送分担率 33.7% の解釈
 - ・ 減少傾向への悲観論
 - ・ それでも 1/3 の分担実績への評価・期待論
- ・ 情報化時代の内航海運
 - ・ 情報サービスと物流サービスは補完財
(click&brick に象徴)
- ・ 経済動向(特に産業基礎物資関連産業の動向)に依存

2. 政策変化とモーダルシフト

- ・ 船腹調整制度時代
 - ・ その導入期にモーダルシフトは叫ばれていたか？
- ・ 暫定措置事業時代
 - ・ モーダルシフトの受け皿としての機能は？
- ・ トラックか、内航海運か？
 - ・ その判断主体は荷主
 - ・ 荷主のモード選択の基準は一般化費用 (generalized cost)
 - ・ その中で環境要因はどのくらいを占めるのか？
 - ・ 環境要因に何らかのインセンティブは？

3. 生産要素としての船舶

- ・ なぜ老朽化が進んでいるのか？
 - ・ 船価の上昇
 - ・ 内航海運事業者の負担力の後退
- ・ 老朽化対策— (1) 船舶対策—
 - ・ 建造コストの縮減
eg. 標準化(かつての国民車標準)
造船技術の革新とその活用

- ・政策的対応

eg. 船舶特別償却制度

買替特例制度

中小企業投資促進税制

等の国民経済的視点からの再検討

- ・老朽化対策－（２）負担力対策－

- ・コスト削減努力の限界論

breakthrough の可能性は？

- ・新たな需要創出

- ・海上輸送（link）と港湾（node）での工夫の余地は？

cf. 生産要素としての船員

４．競争市場での内航海運

- ・外航海運、内航海運の事業区分は永続的か？
- ・市場競争を通じての付加価値の増大
- ・equal-footing 論
 - ・海運税制のあり方
 - ・高速道路の無料化政策の影響
- ・規制緩和下でのグループ制